

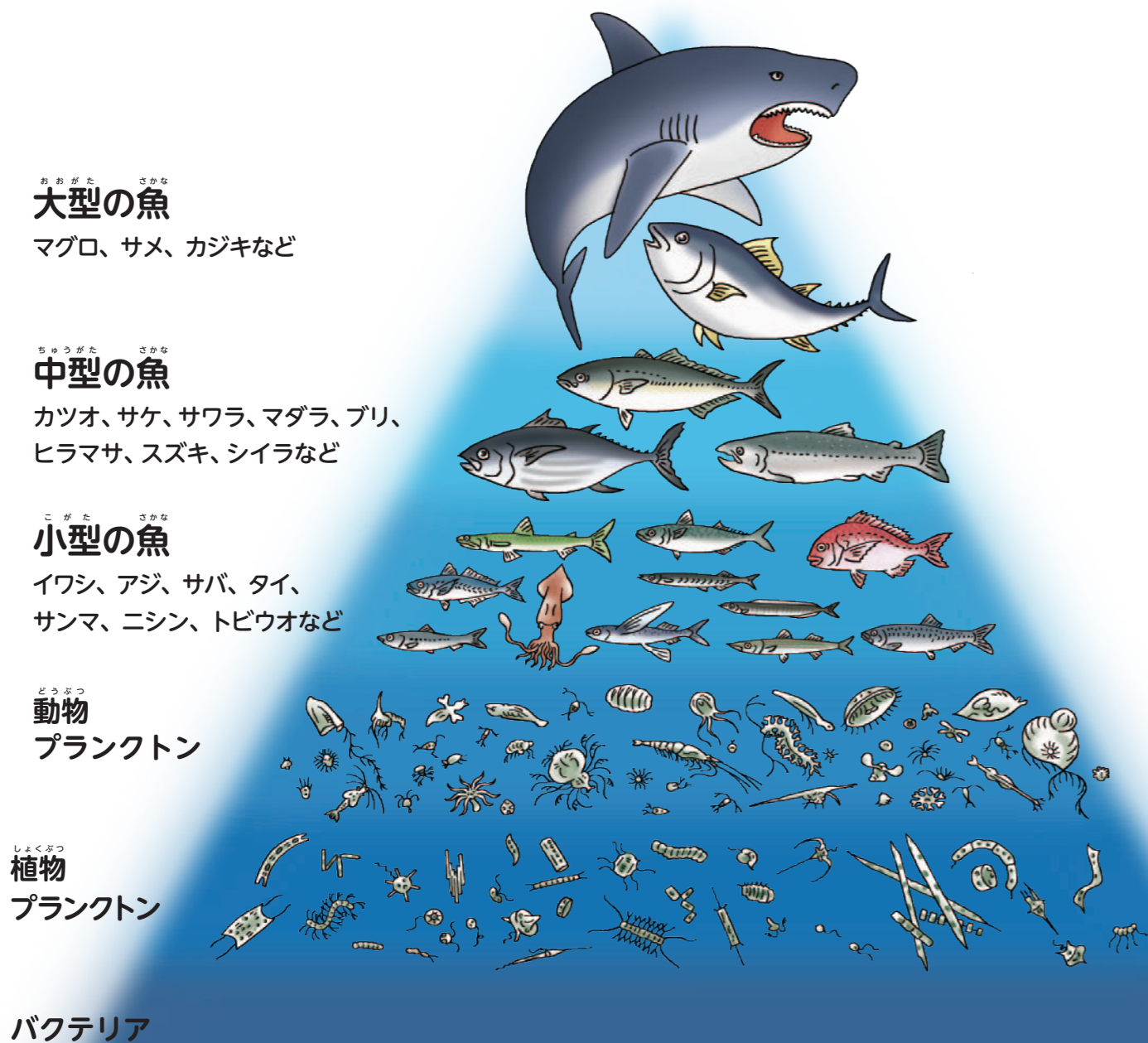
食べる

① 食物連鎖

生態ピラミッド

どんな生きものも、エネルギーや栄養分のやりとりでつながっています。そして、そのやりとりが「食べる、食べられる」ことによる場合を「食物連鎖」と呼びます。生き残るためのさまざまな工夫の結果、3万種を超える魚類の多様性が生まれました。

生きものの個体数はピラミッドの下から上に行くほど少なくなるので、食べつくされることは少なく、またその個体数がある程度変化しても、時間がたてば元のバランス(p.34)に戻る。ただし、乱獲や環境の変化などで大きくバランスが崩れる場合もある。



「食べる、食べられる」関係が 生み出す魚の多様性

「食べる」ことの意味

生きものの体は有機物できている。葉緑体を持つ植物は、光合成をして無機物から有機物を作り出す。一方、動物には葉緑体がないので、ほかの動植物を食べることで効率的に有機物を得ている。

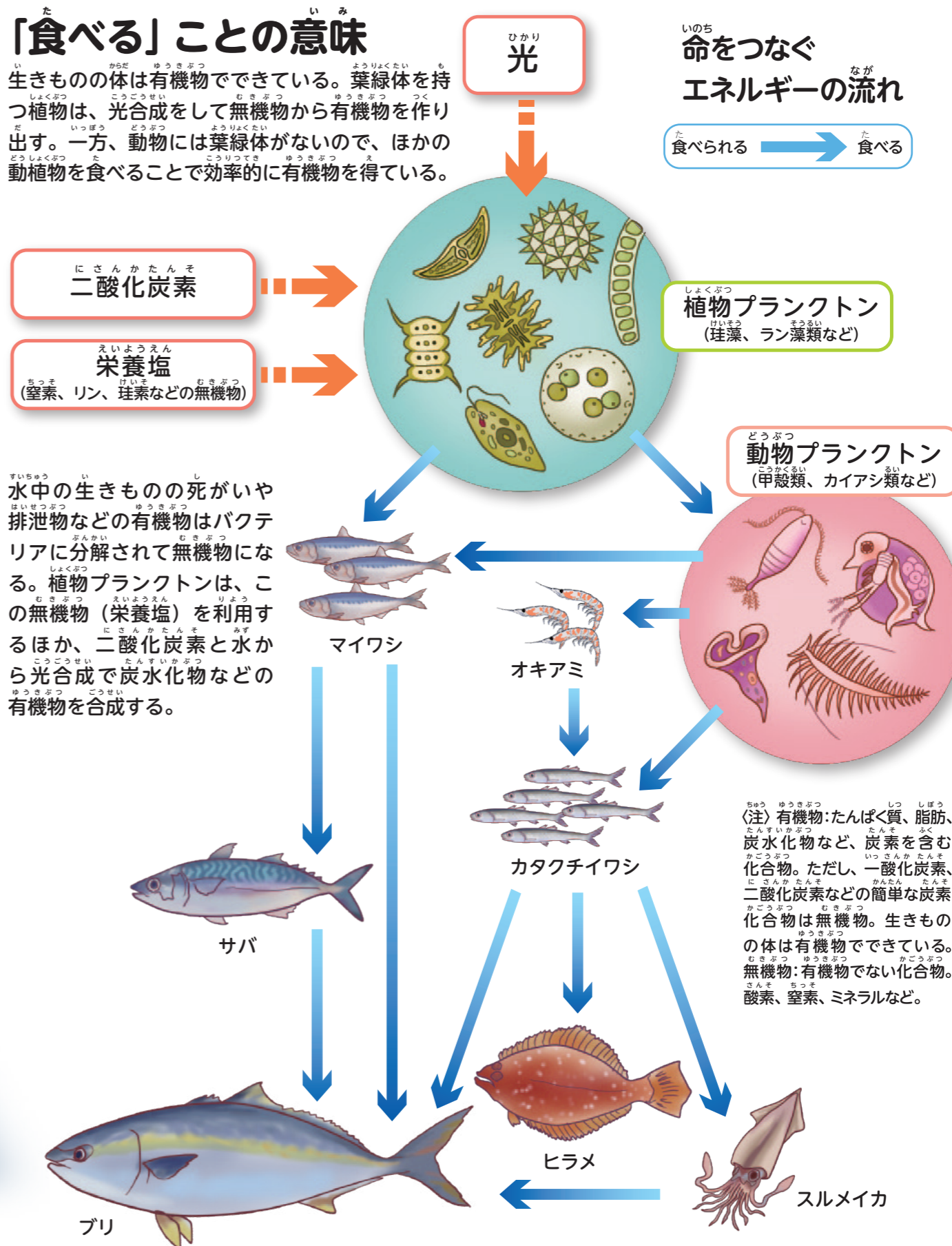


図:「さかな丸ごと探検ノート」編著:足立己幸、著:竹内昌昭、発行:一般財団法人東京水産振興会(初版2011)より一部改変の上転載。転載部分についてさらに詳しく知りたい方は、(一財)東京水産振興会Webサイト(https://www.suisan-shinkou.or.jp/promotion/osakana_notes.html)をご覧ください。